



みんな  
で残した  
木造駅舎を、  
新たな  
生活文化と  
交流の  
拠点へ。

# 掛川駅木造駅舎 完成記念式典

平成26年4月26日(土) 於：掛川駅北口広場

掛川市

# 掛川駅木造駅舎に、 新たな時代の息吹を吹き込もう。

駅を基点に、人は交流します。旅の始まりと終わりも、駅です。

掛川駅木造駅舎と駅前広場の景観美学による新たな旅文化を創出しましょう。

歴史と風格あるここ掛川に、またひとつ

木の文化を大切にした歴史資産が生まれました。

掛川市長

松井三郎



掛川駅木造駅舎は、昭和15年に今の形に改築され、以後70年以上の歴史や利用者の人生を見守ってくれた建物です。東海道各駅の駅舎が建て替えられていく中、古い駅舎の姿を残したまま耐震化が実施されたのは、東京駅と掛川駅の二つのみであります。しかも、東海道新幹線の停まる駅で木造駅舎が残るのは唯一掛川駅のみであります。

駅舎保存のための寄附金は、目標額の5千万円を大きく上回り、現在までに6千8百万円近くが寄せられています。市民の皆さま、市内外の企業等の皆さまとの「協働の力」により実現したものです。

掛川駅木造駅舎を保存・活用する会の御尽力と、JR東海の御理解と御協力に感謝申し上げます。

この風格ある掛川駅木造駅舎を掛川市の「木の文化のまちづくり推進のシンボル」として、駅利用者の「思い出遺産」として、私たちの街の歴史に刻むとともに、未来・そして世界に向けて、情報発信をし、永く後世に引き継いでまいります。

掛川駅木造駅舎を保存・  
活用する会 会長

鷺山恭彦



私たちにとって、掛川駅は、門出と旅立ちの駅であり、異郷で懐かしく思い出す駅であり、帰郷の駅でもあります。「更けゆく秋の夜、旅の空の、わびしき心に独り悩む…」、そんな旅愁におそわれたとき、必ず心に思い浮かんでくる駅です。

出迎えと見送り、出会いと別れ、門出と帰郷。連綿とした記憶が染み込んだ駅空間、改札口、プラットホーム。この記憶は、世代で言えば、既に3世代の中に息づいています。

オールド・ファッションドな北口の木造駅舎、ウルトラ・モダンな南口の駅と広場のたたずまい。これらが持つ可能性は無限であります。

浜松と静岡の中間にあって掛川は、オリジナルな魅力と個性の発信を全国から期待されています。

郷愁と旅愁、そして未来へのロマンを誘う街・掛川。そのシンボルとして掛川駅木造駅舎は、私たちの未来を照らしています。

U.S. Ambassador to Japan

Caroline Kennedy

"If we don't care about our past we can't have very much hope for our future," my mother once said in her fight to save New York's historic Grand Central Station from the wrecking ball. She and others involved in the fight to save New York's iconic train station knew that the preservation of historical structures connects us to our past, and reminds us where we came from and who we are.

The fight to save historical structures is not easy. Sometimes people believe newer is better, and old buildings seem run-down. But old buildings capture the spirit of a community, and all the special moments that have happened within. I congratulate the people of Kakegawa on their hard work, dedication, and commitment in preserving this beautiful station, and I am sure your efforts will inspire other. Knowing there is beauty behind the grime sometimes takes imagination. Convincing others of this value can be difficult. This is why I congratulate the people of Kakegawa. Your vision of how beautiful a restored station building would look, your communication of that concept, and your efforts to raise funds to save the building are all worthy of commendation. Congratulations on your great effort.

駐日アメリカ合衆国大使

キャロライン・ケネディ



「もし過去を顧みないならば、未来に希望はない」-これはニューヨークグランドセントラル駅の取り壊し反対運動に加わった母の言葉です。ニューヨークの象徴的な駅を守ろうとして、その運動に加わった人たちは知っていたのです。「歴史的な建造物は過去とつながっており、私たちの生まれや私たちが何者であるかということを思い出させてくれる」ということを。

歴史的な建造物を守ることは簡単ではありません。時として人は、「新しいことは良いことである」と信じ、古いものに価値を見いださなくなります。しかし、歴史ある建物というものは、その地域の文化(精神性)や、その地で起こった出来事などを保ち、伝えるものでもあります。それゆえに、掛川の人々がこの美しい駅を保つことを決意し、献身的に動いたことを讃えるとともに、この偉業は他の地域にとっても良い刺激になると信じています。掛川以外の人にこの駅の価値を分かってもらうことは難しいことかもしれませんが、それだからこそ、なおのこと掛川の人々を讃えたいと思うのです。歴史ある駅が修復され、それが後世に残された時のことを想像し、駅のために募金活動を行った努力は称賛に値することです。

以上、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 掛川駅木造駅舎保存活動の歩み



昭和15年 改築当時の掛川駅木造駅舎



耐震化工事前の掛川駅木造駅舎

**平成22年  
2月22日** 掛川市出身の東京学芸大学学長（当時）鷲山恭彦氏を中心に、「掛川駅木造駅舎を保存・活用する会」が設立され、寄附金の第1号贈呈セレモニーも行われました。



**平成22年  
3月7日・8日** 掛川駅木造駅舎を保存・活用する会による掛川駅前でのPR活動



**平成22年  
3月26日** 第1回掛川駅木造駅舎を未来につなぐフォーラム 開催



**平成22年3月30日** 市内原谷小学校生徒による掛川駅木造駅舎保存募金の贈呈  
原谷小学校の5年生が掛川駅木造駅舎保存についてポスターを作成し、募金活動を自主的に実施。生徒代表2名から募金を市長へ贈呈していただきました。



**平成22年  
8月20日  
～9月10日** 「掛川駅木造駅舎・今昔写真展」開催  
市民から提供していただいた掛川駅木造駅舎や駅周辺の風景などの昔の写真を、掛川市役所に展示しました。



**平成23年7月4日**

市とJR東海が覚書を締結。駅舎の外観を復元する方法で耐震化工事実施を合意

**平成24年1月20日**

木造駅舎保存寄附金が目標額 5,000 万円を達成。

**平成24年3月21日**

第2回掛川駅木造駅舎を未来につなぐフォーラム 開催

**平成25年3月20日**

始発列車から、仮設駅舎での改札業務を開始

**平成25年  
5月13日  
～6月末**

掛川駅木造駅舎解体工事。解体工事に合わせ駅舎の現況を記録保存するための建物調査を実施。



**平成26年  
1月26日**

掛川駅木造駅舎耐震化工事完了。  
朝5時から供用開始式が行われ、玉尾掛川駅長、松井掛川市長、保存する会鷲山会長の手で、大扉が開けられました。



**平成26年  
1月27日**

供用開始後初めての平日となる27日に、通勤通学で駅を利用する皆さまに、保存・活用する会のメンバーが、駅舎のPR小冊子を配布しました。



駅舎保存活動については、掛川市のホームページにも掲載されています。

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/city/kihu/ekisyahozonkatudou.html>